

「七夕」に思う

日本の季節には一年を四等分した^{しゅんかしゅうとう}春夏秋冬のほかに、二十四等分した^{にじゅうしせつき}二十四節気と七十二等分した^{ななじゅうにこう}七十二候という季節があります。今と違って、^{きゅうれき}旧暦をもとに暮らしていた時代では、人びとは季節の移ろい^{うつろい}をさらに^{こま}細やかに感じ取って生活していました。旧暦は明治5年（1872年）に「^{かいれき}改暦の詔書^{しやうしよ}」が出されるまで、長い間親しまれてきた日本の暮らしの暦でした。



現在の暦（新暦）の七月七日から七月十一日ごろを、二十四節気では、「^{しょうしよ}小暑^{しょうしよ}」といい、七十二候では、「^{おんぷういた}温風至る^{おんぷういた}」といいます。「温風至る」は、夏の風が、熱気を運んでくるころ。^{つゆ}梅雨明け^{つゆ}ごろに吹く風を、^{しろはえ}白南風^{しろはえ}と呼ぶそうです。

『日本の七十二候を楽しむー旧暦のある暮らしー』白井明大著より

さて、中央公民館ではエントランスホールの天井に届きそうな高さ6mの竹を用意して、ふれあいルームに参加している子どもたちや来館者に願い事を書いてもらいました。



- ・お友達と楽しくたくさん遊べますように
- ・走りがはやくなれますように
- ・世界が平和になりますように
- ・げんきな赤ちゃんが生まれますように
- ・コロナがおさまっていっぱいあそべますように
- ・あしのいたみが、すこしでもやわらぎますように
- ・友達が増えました、これからもつづきますように
- ・およげるようになりますように
- ・紀美野町おうえんしてます（東京在）
- ・いろんなくににいけますように
- ・じがうまくなるようにおねがいします
- ・かぞくなかよくできますように

大切な思いがいっぱい詰まった願い事。天まで届け！

（令和4年7月8日）